



雨晴海岸の気嵐と女岩

世界で最も美しい湾は、 物語の舞台でもあった



義経岩

源義経一行が奥州へ落ちのびる途中、にわか雨に降られ、晴れるのを待ったという岩。「雨晴」の名の由来とされる。

義経と弁慶の物語「如意の渡」

兄の源頼朝の追手を逃れ、奥州平泉へ向かう義経一行が「如意の渡」と呼ばれる場所にきた。

渡し船に乗ろうとすると、船頭に義経ではないかと怪しまれてしまう。弁慶は、「あれは、加賀の白山より連れてきた御坊。あれのせいで怪しまれてしまうのだ」と言い、扇子を手にして何度も打った。

船頭は、これは義経ではないと船に乗せ、一行は奈古に着く。弁慶は、「主君を打つなど、恐ろしいことだ」と涙を流し、義経もまた弁慶の思いに涙を流す。謡曲や歌舞伎に出てくる安宅の関のモデルとなった場面と言われている。

義経・弁慶像
(伏木駅前観光駐車場)

あまほらし

雨晴海岸(国定公園)

ユネスコが後援する「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟した富山湾。その富山湾越しに、3,000m級の立山連峰を望む雨晴海岸。他にはない絶景は、人々を引きつけてやまない。

大伴家持が歌に詠んだ地

万葉集に「洪谿(しぶたに)」と詠まれた海岸。海も立山も、都から来た家持の心を強くとらえた。

松尾芭蕉があこがれた歌枕の地

「早稲の香や分入(わけいる)右は有磯海」。この地の歌枕にあこがれた松尾芭蕉の句が残されている。「おくのほそ道の風景地—有磯海—」として、国の名勝に指定。



本堂

中世城郭寺院の威勢を伝える

雲龍山 勝興寺(重要文化財)

勝興寺は、約540年前に創建された浄土真宗寺院で本願寺中興の祖と言われる第八世蓮如上人ゆかりの名刹。約40メートル四方の本堂の屋根は、地方においては破格の規模とされる。戦国時代には、一向一揆の拠点となり、藩政時代には



越中一宮の風格

氣多神社(重要文化財)

延喜式内の古社で、越中一宮の一つとして古くより崇敬されてきた。社殿は、三間社流造り、こけら葺き屋根など、室町時代に再建された様式を今に伝える。境内に、大伴家持を顕彰して創建された「大伴神社」がある。

雲龍山 勝興寺

高岡市伏木古国府17番1号

参拝時間/午前9時~午後4時
(最終受付3時30分)料金/一般・大人:500円、中高生:200円、
小学生:100円団体(20人以上)大人:400円、
中高生:150円、小学生:70円

TEL.0766-44-0037

「勝興寺の七不思議」

- ・実ならずの銀杏(本堂前)
- ・天から降った石(本堂前)
- ・水の濁れない池(本堂南側)
- ・屋根を支える猿(本堂屋根下の四隅)
- ・魔除の柱(本堂内南側の奥)
- ・雲龍の硯(宝物収蔵庫)※現在は本堂内
- ・三葉の松(本堂北側)

前田家の保護を受け、明治時代にいたるまで越中の真宗寺院や門徒をまとめてきた。「勝興寺の七不思議」は有名。令和2年度まで23年をかけて、重要文化財に指定された12棟全ての保存修理を行い、江戸時代の壮麗な伽藍が蘇っている。



北陸路にある臨濟禅の道場

摩頂山 国泰寺

臨濟宗国泰寺派の本山。永仁4年(1296)、慈雲妙意が立てた草庵が始まりとされる。戦国時代には、守山城の攻防で焼失したが、神保氏によって再建された。禅の道場としても有名で、6月の開山忌には、虚無僧の尺八と読経の大合奏がこだまする。